

糸島市立図書館 (令和8年4月発行)

〒819-1119 糸島市前原東1丁目3番1号

TEL : 092(321)1432 FAX : 092(321)1632

<http://itoshima.libweb.jp>

Y A

A Book List For Young Adult Vol.18



「YA（ヤングアダルト）本おすすめリスト vol.18」完成！

…糸島市立図書館 YA 本研究会/選書・編集…

令和 7 年度版「YA 本おすすめリスト」が完成しました。

昨年 5 月に、中学生 5 人、高校生 4 人、司書 1 人の合計 10 人で始まった委員会。6 人の経験者に加え、新人 3 人と久しぶりにメンバーになった 1 人(司書)という顔ぶれでしたが、すぐに打ち解け、楽しい活動になるだろうことが予感できるスタートでした。

ある時飛び出した「去年したかったけど、できなかったことがある」との高校生の発言を受けて、読書週間イベントでは、やり残した「物語作り」にも挑戦しました。メンバーに受験生が多いので、負担を少なくするため、イベント参加者とのコラボで一つの物語を完成させる「物語リレー」にしました。できあがった物語たちは、このリストに掲載していますので、ぜひお楽しみください。

今回のリストには「なるべく多くの本を紹介したい」というメンバーの気持ちがこもっています。みなさんの心に寄り添える本があることを祈って、お手元に届けます。

<YA（ヤングアダルト）>とは

主に 10 代の読者あるいは利用者を、児童と成人の間に位置し独特の配慮を要する利用者層として図書館界・出版界で意識して呼称するときに使う用語。YA と略することが多い。

(『最新図書館用語大辞典』 図書館用語辞典編集委員会/編 2004. 4)

<糸島市立図書館 YA 本研究会>とは

中高生の読書推進のため、糸島市在住・通学の中学生・高校生に選書委員になってもらい、糸島市立図書館司書といっしょに 2 ヶ月に一回ほど会を開き、糸島市立図書館独自のおすすめ本リストの作成にあたる。会ごとに「ビブリオバトル」を開催し、リストに掲載する本を選書する。作成したリストは読書活動に役立つように、各学校及び一般利用者に配布する。



チャンプ本



『15歳からのリーダー養成講座
改革のカリスマ直伝！Autonomy,
Dialogue and Creation』

工藤 勇一/著

幻冬舎 2022.10 (Y361ク)

〈内容〉

リーダーシップとは何かから、チームのまとめ方、プロジェクトの進め方、対立の解消の仕方、人の心に届く言葉の選び方まで、リーダーになるための基本を紹介する。横浜創英中学・高等学校の特別授業をもとに書籍化。

〈オススメのポイント〉

タイトルに「リーダー」とついていますが、人に伝える話し方のテクニックがつまっていて、誰にでも参考になります。



『かばんうりのガラゴ』

島田 ゆか/作 絵

文溪堂 1997.11 (Eシ)

〈内容〉

ガラゴは旅するかばんやさん。いつも右と左、色の違うくつをはいていて、お客さんがほしいかばんを、いつでもどこでも出してくれます。さあ、今日、最初のお客さんはだれかな？

〈オススメのポイント〉

色々なかばんを売っているガラゴですが、特にぞうにお茶会用のポットの形をしたかばんをあげたところが好きです。



『神様の御用人』シリーズ
浅葉 なつ/著
KADOKAWA 2013.12～ (YBF ア)

〈内容〉

神様たちの御用を聞いて回る人間、“御用人”。ある日突然、モフモフの狐神・黄金からその役目を命じられたフリーターの良彦は、古事記やら民話やらに登場する神々に振り回されることになり…。

〈オススメのポイント〉

神様について詳しくなれます。はじめは頼りない主人公(すでに大人)の人間的な成長や神様と人との関わり方など、ドはまりポイント満載の物語です。



『それを世界と言うんだね
空を落ちて、君と出会う』
綾崎 隼/著
ポプラ社 2023.3 (YF ア)

〈内容〉

歌:花譜 曲:カンザキオリ

記憶を失ったまま、物語に登場するキャラクター達が暮らす“物語管理局”で目覚めた少女。自分の正体を突き止めるため、「王子」とともに物語の世界へと飛び込むが…。同名の人気楽曲を小説化。ポプラキミノベル版も同時刊行。

〈オススメのポイント〉

この物語をカンザキオリが楽曲化し、花譜が歌う曲もおすすめです。読むだけではなく、聴くだけでもなく、両方楽しんでほしいです。



『名探偵のままでいて』
小西 マサテル/著
宝島社 2023.1 (Fコ)

〈内容〉

かつて小学校の校長だった切れ者の祖父は、レビー小体型認知症を患っている。孫娘の楓が身の回りで生じた謎について話して聞かせると、祖父の知性は生き生きと働きを取り戻す。そんな中、楓の人生に関わる重大な事件が…。

『このミステリーがすごい!』大賞大賞

〈オススメのポイント〉

コアなミステリーファンにささるお話です。認知症のおじいちゃんが、孫と事件を解決する時は頭がさえわたり、「タバコを一本くれないか」の決め台詞がかっこいいです。



『さよならごはんを明日も君と』
汐見 夏衛/著
幻冬舎 2024.5 (YBFシ)

〈内容〉

人と一緒に食事をするのが怖い、ストレスで爆食する、ごはんをつくっても感謝されない…。心も身体も限界寸前のお客様が辿り着く夜食専門店で、店主の朝日さんはその人だけの特別なお夜食を提供し…。

〈オススメのポイント〉

食についての悩みを持っている人にだけ現れるごはん屋さんで、その人に合わせた料理をその場で作って、色々な悩みを解決してくれます。料理のシーンが書かれてて、読むだけでおいしそうな、心があつたまる本です。表紙にも工夫があつておすすめです。

チャンプ本…ではないけれど おすすめです！

『従前従前皇帝有座遊樂園 故宮好好元〈2〉』

陳 又凌/文・絵 聯經出版 2025. 2 (G722 子)

〈内容〉

台湾の国立故宮博物院には『清画院画十二月月令図』という画があります。月令図(げつれいず)とは風俗画の一種で、その月の歳時、祝賀、その時々の人々の服装や食べ物などの暮らしが描かれていて、昔の人々が天気や節句に従い、四季を楽しむ様子を知ることができます。

この本を開いてみてください。まるでタイムスリップして、その時代で生活しているように感じられますよ。

『戦争で死んだ兵士のこと』

小泉 吉宏/作 メディアファクトリー 2001. 12 (Y726 コ)

〈内容〉

今はのどかな森の中の湖のほとり、ひとりの兵士が死んでいる。1時間前、兵士は生きていて戦っていた…。誕生までの彼の人生をさかのぼり、生きているというあたりまえのことを思い出す。97年刊を加筆復刻。英文併記。

『日日是好日 「お茶」が教えてくれた15のしあわせ』

森下 典子/著 新潮社 2008. 11 (B791 モ)

〈内容〉

週に一回、「お茶」の稽古に通ううち、気がつけばもう25年。失恋、父の死、コンプレックス…、辛い季節を「お茶」とともに乗り越えた成長ヒストリー。厳格な約束事に縛られた窮屈な茶道の中にある、大きな自由とは？

『星屑鉄道の鉱石カフェ』

蒼月 海里/著 マイクロマガジン社

2024. 8 (YBF ア)

〈内容〉

悩める人の前にだけ現れる不思議な列車。乗組員は人を好きな死神、物憂げな墮天使、尊大な賢者。彼らが提供する、きらきらと輝く「鉱石スイーツ」が、乗客たちをふたたび前を向いて生きる方向へと導いていき…。

『ぴよちゃんとひまわり』

いりやま さとし/さく・え 学研 2004.4 (DEイ)

〈内容〉

ひよこのぴよちゃんが、たねをひろいました。はっぱをふやしてたべようと、いっしょうけんめいせわをします。くきがどんどのびて、大きくなり、とうとう大きなきれいな花をさかせました。ぴよちゃんとヒマワリの花は、なつじゅう、なかよく、たのしくすごしました。なつのおわりにヒマワリはかれてしまい、ぴよちゃんはかなしみますが、たねがのこります。

葉っぱをふやして食べるつもりで育てたひまわりと仲良しになったぴよちゃんですが…。ひまわりの花がパッと開くしかけ付き。ぴよちゃんシリーズ。環境対応型である大豆油インクで印刷。

『本好きの下剋上 第1部 [1]』

司書になるためには手段を選んでられません』

香月 美夜/著 T Oブックス 2015.2 (YFカ)

〈内容〉

本が大好きな女子大生が、病気がちな5歳の女の子、マインとして生まれ変わったのは、書物がほとんど存在しない世界。いくら読みたくても高価で手に入らない。そこでマインはある決意をし…。『小説家になろう』掲載を書籍化。

『世界から猫が消えたなら』

川村 元気/著 マガジンハウス 2012.10 (Fカ)

〈内容〉

「この世界からひとつだけ何かを消す。その代わりにあなたは1日の命を得ることができる」余命あとわずかな30歳の郵便配達員は、陽気な悪魔からささやかれ…。LINEの連載小説を書籍化。

『府中三億円事件を計画・実行したのは私です。』

白田/著 ポプラ社 2018.12 (Fシ)

〈内容〉

ようやく心を決めました。この場を借りて、ひとつの告白をさせていただきます。府中三億円事件を計画、実行したのは私です。事件発生から50年、ネットに投稿された小説。

『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理/作 ポプラ社 2007.1 (YF ソ)

〈内容〉

角川文庫 1985 年刊の再刊

夏休みを前にした1学期の終業式の日、東京下町にある中学校の1年2組の男子生徒全員が姿を消した。彼らは河川敷の廃工場に立てこもり、大人たちへの「叛乱」を起こしたのだ…。7日間に及ぶおとなたちとの大戦争を描く。

『謎の香りはパン屋から』

土屋 うさぎ/著 宝島社 2025.1 (F ツ)

〈内容〉

大学生の小春はパン屋でアルバイトをしている。あるとき親友の由貴子にドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして？小春は彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。〈日常の謎〉連作短編集。

『このミステリーがすごい!』大賞大賞

『さよなら、灰色の世界』

丸井 とまと/著 スターツ出版 2023.1 (YBF マ)

〈内容〉

ある日、色が見えなくなる「灰色異常」を発症し、人の個性を表すオーラだけが色づいて見えるようになってしまった高1の楓。人それぞれ色があるのに、楓だけは個性のない灰色だった。そして、それを同級生の良に知られ…。

『死にたがりの完全犯罪と部屋に降る七時前の雨』

山吹 あやめ/著 T O ブックス 2022.2 (BF ヤ)

〈内容〉

死にたがりの先輩・月也と二人暮らしをする後輩・陽介は、暇潰しと小遣い稼ぎに「お悩み解決サイト」を始めて…。日常の謎を解く短編と「死にたがりの探偵」の完全犯罪計画。言葉よりも大事な感情を紡ぐ2人の物語。

『ネコの手を借ります。』

山本 甲士/著 小学館 2025.11 (BF ヤ)

〈内容〉

人間関係につまずき、国立大学を中退し、引きこもりになって 10 年。ある日、宗也は側溝に閉じ込められた子ネコを助け、育てることを決意。この決断が孤独な彼の人生に大きな変化をもたらすことになり…。

『もものかんづめ』

さくら ももこ/著 集英社 1991.3 (914.6 サ)

〈内容〉

短大時代に体験した、存在意味不明な食品売り場でのアルバイト。たった 2 ヶ月間の OL 時代に遭遇した恐怖の歓迎会……。漫画とは違ったさくらももこの日常がつまったエッセイ集。

『青いイルカの島』

スコット・オデル/作 藤原 英司/訳 小泉 澄夫/絵
理論社 2004.7 (933 才)

〈内容〉

原タイトル: Island of the blue dolphins

その島は〈青いイルカの島〉と呼ばれていました。島の高みに立つと、島の形がイルカのように見えます。昔、この島の人々は、敵との戦いで多くの男たちを失い、そのつらい思い出にたえかねて島をはなれることにしました。ところが、男の子が船に乗りおくれ、海に飛び込んで島にもどった姉と、二人が取り残されてしまいました。

ただひとり孤島にとり残された少女は、きびしい自然や孤独と闘いながら 18 年という歳月を生きぬいた。アメリカで本当にあった話をもとに書かれたロングセラー。1966 年刊の再刊。

『まっくろヒヨコ』

ラスカル/文 ピーター・エリオット/絵 平岡 敦/訳
偕成社 2003.10 (YE エ)

〈内容〉

原タイトル: Poussin noir

みんなは黄色いのに 1 羽だけまっくろなヒヨコ。本当のパパとママを探すけど見つからない。あきらめかけた時、森で見つけたのは? 厳しいのは人間社会だけじゃないと教えてくれる、大のオトナが読む絵本。子どもも読めます。

特別企画…あなたの夢はなんですか？…

8月の委員会でメンバーと「将来したい仕事」について語り合いました。みんなの“夢”が詰まった本たちを、あらためて紹介します。

『青い鳥文庫ができるまで』

岩貞 るみこ/作 講談社 2012.7 (020イ)

〈内容〉

作家、イラストレーター、デザイナー、印刷会社など、本を世に出すために奮闘(ふんとう)する人々への取材にもとづいた、本作りの臨場感(りんじょうかん)あふれる現場(げんば)の姿(すがた)。青い鳥文庫の大人気シリーズが書店にならぶまでをストーリー形式でえがいた、追真(はくしん)のノンフィクション。

『不思議なウィーン 街を読み解く 100のこと』

河野 純一/著 平凡社 2016.8 (293.4コ)

〈内容〉

人と生活から音楽、衣食住、建築、季節、自然、交通、通信まで、ウィーンの思いがけない魅力に出会える 100 の視点を紹介する。『月刊ウィーン』連載に加筆修正して単行本化。

『WE HAVE A DREAM 201カ国 202人の夢×SDGs』

WORLD DREAM PROJECT/編 いろは出版 2021.6 (333.8ウ)

〈内容〉

誰にでも公平なチャンスを(チュニジア)、祖国に笑いを取り戻す(イエメン)…。2020年3月～2021年4月に201カ国202人に書いてもらった夢を紹介する。夢に関連するSDGsの番号も併記。英語版も同時刊行。

『お父さんが教える 13歳からの金融入門』

デヴィッド・ビアンキ/著 関 美和/訳

日本経済新聞出版社 2016.7 (Y338ビ)

〈内容〉

原タイトル:Blue chip kids

株はどうやって売り買いするの? どこで買ったらいいの? 株式以外にどんな運用方法があるの? アメリカ人のベテラン弁護士が、おカネと投資と株式市場について、13歳の子どもにもわかるように解説する。

『アフターハイスクール 日本の中心で出会う多文化・多言語』

名古屋外国語大学出版会/編集

名古屋外国語大学出版会 2022.1 (Y361ア)

〈内容〉

コトバと文化と社会へのガイダンス。韓国語、フランス語、タイ語、アラビア語、中国語、ポーランド語…。14言語の特徴と面白さ、歴史や生物、ボランティア活動、音楽、ファッション、グルメなどを紹介する。

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木 俊貴/著 小学館 2025.1 (488.9ス)

〈内容〉

「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者が、鳥の言葉を科学的に解明するための実験方法などを、軽快に綴る。シジュウカラの鳴き声が聞けるQRコード付き。

文献:p260~261

『かわいい映画のかわいいレシピ。』

ワニブックス 2006.8 (596カ)

〈内容〉

スタジオジブリからディズニーまで、とってもおいしいレシピ集。「天空の城ラピュタ」の目玉焼きトースト、「わんわん物語」のミートボールスパゲティなど、超人気アニメ映画のお料理が、あなたのおうちでも簡単に作れます。

『元彼の遺言状』

新川 帆立/著 宝島社 2021.1 (Fシ)

〈内容〉

「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という遺言状を残して、大手製薬会社の御曹司が亡くなった。学生時代に彼と交際していた弁護士の剣持麗子は、「犯人選考会」に参加し、依頼人を犯人に仕立て上げようと奔走するが…。

『このミステリーがすごい!』大賞大賞

★内容：TRC MARC より引用 および 司書作成★

「物語ルー」で生まれた物語たち

秋の読書週間イベントで、参加者とYAメンバーとのコラボで生まれた物語をご紹介します。★文章は書いていただいたとおりに載せています★

◆はじまりとつづき編◆

はじまりの物語

さあ出発だ！行先はこの～

つづきの物語

宝島だ！！船長が指を差したその島は、バミューダトライアングル……。そう、呪われた海域にうかぶ島だったのだ。「船長！本当に行くのですか！？」船員が聞く。それに続いて「本当ですか！？」「やめましょうよ～」と他の船員が話す。しかし、船長はそのような言葉を耳に入れず、「行くぞ！！」とはりきっている。「やれやれだなあ～」と僕はつぶやく。さて、どうしたことだろう。バミューダトライアングルは「呪われた海域」と言われるように、船が沈み、船員が海になげられる事故が多発している。しかし、内心ワクワクしている所もある。バミューダにいどむというすごい事をしようとしているのだから。

「さあ出発だ！呪われた海域バミューダトライアングルへ！！」

はじまりの物語 『リュウの物語』

時は大航海時代。そこに1人の少年がいた。少年の名はリュウ。リュウは幻の島に眠る「〇〇」という秘宝を探し求め、1人で航海をしていた。それがどんな宝なのか、いつ眠りについたのか誰も知らない。リュウには力があつた。「◇◇」という力だ。そんなアテのない航海にリュウは身を投じる。ただ1人、今日も舟をこぎ続けて……。

つづきの物語

ふと疑問に思うことがある。本当に秘宝はあるのだろうか？
また、不安にかられる時がある。いつまでこうして1人で旅を続けなければならないのだろうか？
それでもリュウは決してやめない。秘宝が見つかるまで舟をこぎ続ける。
「あきらめない心」「継続する力」を、リュウは持っているのだから……。

はじまりの物語

『みやあ』

あ、ねこ。

待ち合わせ場所で合流して、さあ出発、と思った時。君がそんなふうに呟いたのを僕は聞き逃さなかった。

「ねこ、どこにいるの？」

「ほら、あそこ、木の下にいるじゃない」

そう言って指さす君の視線を辿ると、確かにいた。

つづきの物語

確かにいた。確かに……。動いているから生き物なんだろうけど、なんだか青黒くてどろどろしてる。「……ねこ？」なんとかしぼり出した僕に、君は不思議そうに目を向ける。「ねこだよ？かわいいよね」そう言って君は木にかけよった。迷いなく青黒いどろどろに手をのばす。「危ない！」止める間もなく、君は三毛猫を抱き上げていた。かわいいねこだった。

「みやあ」

「小さくてかわいいな。今からおでかけじゃなければ連れて帰りたいのに」残念そうに「君」が呟く。

木の下で「ねこ」を抱く「君」。僕の見間違いだったのか。疲れていたのかな。その間にも「ねこ」は鳴いている。「そろそろ駅に向かわないと間に合わないよ」

僕は「君」に声をかける。「そうだね。名残おいしいけど。行こうか」木の下に「ねこ」をおろし、「君」が立ち上がる。「ねこ」が必死に鳴いている。連れだって歩く「君」の目が、青黒く虚ろに光っているのに、僕は気付いていなかった。



はじまりの物語

『ぼくがさき！』

ふと目をさますと、ぼくは天国にいた。雲のベッドでうとうとしている
と、“パンパカパ〜ン”って聞こえた。下をのぞいてみた。

「あっ、ぼくのお父さんとお母さんの結婚式だ！」

・・・あれっ、もう一人のぞいている人がいる。誰だろう？

それからぼくは、毎日お父さんとお母さんの様子を見ていた。早く、二人
のところに行きたいなあ・・・あれっ、やっぱりもう一人のぞいてる。

ある日、ぼくはとうとうお母さんに「おいで」って言われた。ぼくは、急
いで雲の階段を降りたんだ。もう少しでお母さんに届くところまで来た。
その時、誰かに手を引っ張られた。振り返ると・・・。

つづきの物語

振り返ると、いつもお父さんとお母さんを見ていた人だ。

「きみ、いつも一緒にお父さんとお母さんを見ていたよね、どうしたの？」

「あのね、ぼくもお母さんのところに行きたいの」

「じゃあ一緒に行こうよ！」

ぼくが先に行くはずだったんだけどな、とは思ったけれど、この子もいつも
見ていたしいいかって、手をつないで歩いた。ふわふわの雲の階段を降りて、
最後の一段を下ったとき、ぼくとあの子は赤ちゃんになってお母さんの腕の
中にいた。

「双子の男の子です！」なんていう声が聞こえて、ぼくたちは兄弟だったん
だなと思って嬉しかった。

ちなみにぼくがお兄ちゃんだよ。



はじまりの物語

『魔法と雨の街』

ここは雨の街。何百年も前からずっと雨が降り続けています。

この街のとある家には魔法使いと一人の男の子が住んでいました。魔法使いは雨の降り続けるこの街で、男の子にたくさんの魔法を見せてくれました。男の子も魔法使いが見せる綺麗な魔法が大好きでした。

……はじまりの物語の作者によるつづきの物語……

魔法使いはこの街で何でも屋を営んでいます。男の子はそんな魔法使いのお手伝いをしながら一緒に暮らしています。

ある日の夕方、魔法使いの家に大きなため息が響き渡りました。

「はああ……………。色々失敗しちゃった……………」

『何とかなったんだ。気にしないで大丈夫さ。今日はいつもより大きめの依頼が入ったからね。お疲れ様』

受けた依頼で失敗をしてしまい、しょげた様子の男の子は一向に元気を取り戻しません。そんな様子に見兼ねた魔法使いがとある提案をします。

『少し、気分転換に出かけようか』

すっかり夜も更けて辺りは真っ暗。静かな夜に雨の音が響きます。魔法使いの箒と一緒に乗せてもらい二人は雨の中の空を進みます。

「魔法使いさん。どこに向かっているの？」

男の子の疑問に魔法使いは優しい笑顔で答えます。

『頑張り屋な助手に元気を取り戻して欲しくてね。ここは一肌脱ごうかと。さあ、そろそろ目的地だ。スピードをあげるよ、しっかり捕まって！』

「えっ…………うわあっ！！」

箒が厚い雲に向かって一気に上昇し始めます。

「…………っ！ぶつかる！」

男の子にぶつかる雨の強さもどんどん強くなります。

男の子は強く目を瞑りました。

すると急に男の子の体にぶつかる冷たい雨が消えました。

「……………？雨が……………」

『目を開けてごらん』

「えっ？…………わあっ！！すごい！！きれいっ！」

そこには静かな夜空にきらきらと輝く無数の星。

雨の降る街で過ごしてきた男の子が初めて見る世界が広がっていました。

『驚いたかい？だが、毎日私と一緒に頑張ってくれる君にはもう一つ、私からプレゼントを渡そう』

そう言うと魔法使いは人差指を立て、くるりとひと振り。
すると魔法使いの指先から優しい小さな光が放たれ、くるくると男の子の周りを回ります。

「なにになに・・・？どうなるの？」

少しして光は男の子の元から離れ、上に向かって飛んでいきます。次の瞬間、たくさんの光が花のように広がり夜空に輝きました。

「・・・・・・・・！花火だっ！！本でしか見た事なかったのに！すごい、すごいっ！」

男の子の目は無数の星や花火が反射してきらきら光っていました。花火が終わる頃には箒に乗る前のような暗い気持ちはありませんでした。

「やっぱり僕、魔法使いさんのきれいな魔法が大好き！」

『それはよかった。明日からも忙しくなる。君には元気で居てもらわないとね』

「うんっ！ありがとう、魔法使いさん。僕、明日からも頑張るよ！！」

これはとある魔法使いと魔法が大好きな男の子の物語。何百年も前から雨の降り続く雨の街で男の子が見た、雨のない一夜の物語。

つづきの物語

男の子は魔法使いに憧れています。いつか自分も魔法を使ってみたいと思っていますが、いつも魔法使いに止められます。魔法を使うこと以外は何でも応援してくれるのに、なんで魔法だけはだめなんだろう。

男の子は毎日、魔法使いにかくれて練習します。くる日もくる日も練習します。いろんなことを試しますが、魔法は使えません。

ある日、男の子は街壁の穴から抜け出し、街の外へ出ました。晴れた空の下を歩くのは生まれて初めてです。明るくて楽しくて駆け出しました。気持ち良い風が吹き抜ける草原のまん中で、男の子は魔法を唱えます。

「できた！」男の子は嬉しくなって家に帰り、魔法が使えたことを魔法使いに報告しました。

魔法使いは驚き、喜んでいましたが、少しさびしそうな顔をしています。魔法使いは、男の子が晴れた空の下でなら魔法が使えることを知っていたのです。一方、魔法使いは自分が雨の下でしか魔法を使えないこともわかっていました。

「もっと先のことだと思っていたんだが・・・」

男の子と魔法使いの別れの時が近づいていました。

はじまりの物語 『金色のコトリ』

ある日、とても静かな森の中に、ぼとんと何かが落ちました。
それは、金色の羽をもつ小さなコトリでした。

「いたたた・・・ここは、どこ？」「わたしはだれ？」

……はじまりの物語の作者によるつづきの物語……

「おきて！おきて！」「こら！おきなさい」

やさしい声がこわい声に変わりました。

「こら！なん時だと思ってるの、おきなさい！学校に遅れるわよ」
大急ぎで学校にとんでいきました。

「あ～あ、夢だったのか」

大きな世界の中にあんな夢のような場所があったらいいな～！

つづきの物語

あたりをふらふら歩いていると、目の前に同じ金色の羽をもつ小さな鳥が現れました。

「あれ？きみはどこの子？見かけない子だね」

「わたし、自分は誰なのか、どこから来たのか分からないの」

「え～！！そうなの！それならぼくのところにおいでよ。仲間がたくさんいるよ」

「いいの？ありがとう」

ついていくと、そこはたくさんの花が咲き乱れ、きれいな小川に、のびのびと大きく枝を広げた大木がありました。

「わあ！なんてステキなところなんだろう」

大木の枝にとまって、辺りを見まわしながら思いました。もう、この場所にずっといてもいいかな・・・。あたたかい風に吹かれていると、だんだん眠たくなってしまいました。



はじまりの物語

真夜中。

崖の上にそびえたつ伯爵家の扉を、誰かがコンコンと叩く音がした。こんな夜中に、しかもこんな辺鄙な場所に一体誰が？

伯爵は恐る恐る扉に手をかけ、そっと開いた。

すると、そこには・・・。

つづきの物語

お年寄りがたっていました。お年寄りは、伯爵にこう言いました。「一晩とめとくれ」伯爵は、えがおになり、「いいですとも！」と言いました。

伯爵は、なぜか「いいですとも！」と言う言葉が出てしまいます。でも、お年寄りだから、だいじょうぶと思いました。伯爵は、お年寄りを、へやへあんないしました。お年寄りは、へやを見まわして、こう言いました。「すてきなおへやをありがとう！」伯爵は、うれしくなって、にっこりとわらいました。そして、扉をしめると、その時伯爵のうしろをなにかがとおったきがしました。伯爵は、すこしぶきみになったのか、自分のへやへはしっていきました。伯爵は、そのままベッドにもぐりこみ、目をつぶりました。

伯爵は、すこしふしぎなゆめを見ました。お年寄りのへやの中に、あかいもじで書かれたおふだがなんまいもはってあるのが見えました。伯爵の目のまえに、あのお年寄りがいて、こう言いました。「このおへやにちょうどいいと思ったの」お年寄りはぶきみにわらいました。お年寄りのうしろには、伯爵がぶきみと思っていた黒いかげがみえました。そのまま、伯爵はお年寄りにひきずりこまれるように黒いものにひっぱられました。伯爵がもがくと、黒いかげにひきずりこまれました。

そして、またお年寄りがこう言いました。「ずっとここにいるから、ずっとここにいてね」そのまま、伯爵とお年寄りが、黒いかげといっしょにきえていき、伯爵のすんでいた家は呪われた館として、しられました。



はじまりの物語

待ち合わせ場所、少しおくれてしまった・・・。
待ってくれているだろうか。そこにいたのは～。

つづきの物語

あの日と変わらない姿の僕の妻。

「待たせてごめんね」

「いいのよ。あなたにはゆっくり来てほしかったから」

「会いたかったよ。君は今も若くてきれいだ。それに比べて僕は、こんなに年をとってしまったよ」

「何言ってるの」そう言って、妻は僕を湖のほとりに連れて行ってくれた。

「ほら見て。あなたもあの日のままよ」

湖に映った姿に安心して、僕は彼女の手をとった。これからはずっと一緒だ。もう離れることはない。

★「物語リレー」の物語たちについて★

「はじまりとつづき編」では、YA本研究会の委員が作成した「はじまりの物語」に、イベント参加者が「つづきの物語」を作成し、一つの物語が出来上がっています。

また、「魔法と雨の街」「金色のコトリ」については、「はじまりの物語」の作者が、自分の考えたエンディングも載せています。



◆その間に何があった編◆

ドアが閉まります・・・・・・・・・・ご注意ください

《ドアが閉まります》

「待ってください〜い」

まずい、入り口まであと10メートルはある。このままだと、めちゃくちゃ待つことになる！

はっ！たしかあの人12階の人！人が来てもフツーにドアを閉める、あのめんどくさいお婆さんじゃないか！

いや、いける。届くぞ！ギリギリ届く、バッグをはさめば！

どうせはさんでも、あの機械音が鳴るだけだし、「はっ！」僕はダイナミックにエレベーターにバッグをはさみこんだ。

《ご注意ください》

お前はもう・・・・・・・・・・死んでいる

「お前はもう・・・」

父さんがそう言ったのが聞こえた気がした。明日は僕の誕生日なんだからさ、笑ってよ。父さん、そんな悲しい顔してたら、明日の主役の僕も悲しくなってくるだろ？ずっと楽しみにしてたんだから、やめてよ。あれ、母さんも、お医者さんもいる。みんな暗い顔してる・・・。おーいみんな、僕は大丈夫だよー。そう言っても三人の顔は変わらない。僕の声って聞こえてない・・・？

「残念ですが息子さんは・・・」

そう医者が言った。「そんな、そんなはずないだろ！昨日までずっと元気だったじゃないか！そんな、そんなはず、ないだろ・・・」俺たちの息子はわずか十歳で永遠に目を覚まさなくなった。「どうしてお前なんだ・・・。お前はもう生き返ることはないのか？お前にはこれから明るい未来が待っていたんじゃないのか・・・」返事は聞こえない。嫁も医者も何も言わない。

せっかく明日のためにケーキも予約してろうそくも買ったのに。なあ、俺の声は聞こえているか？もう一度話したいよ。お前がいらないこれからの人生なんて「死んでいる」

★参考：『空白小説 書き出しと結びが決まっているショートショート』
氏田 雄介/著 小狐 裕介/著 水谷 健吾/著
ワニブックス 2022.5 (Fク)

ヤングアダルト

YA本研究会だより

2025.5
Vol.1

…令和7年度第1回YA本研究会《5月25日(日)》…

高校生4人、中学生5人と司書1人の合計10人で今年度も始まったYA本研究会。

昨年度から引き続き参加しているメンバーの会話が弾んでいる様子に「新しく加わった人は!？」と少々心配をしておりましたが、そこは同年代。ちゃんと打ち解けてくれているようで一安心。来年の2月に、10人全員が「参加してよかった」と思えるような活動にしていきたいです。



1回目は
2人お休
みでした

第1回目といえば恒例の好きな本を交えての自己紹介。それぞれ持ち寄った本には個性が表れます。

『シャーロック・ホームズの冒険』アーサー・コナン・ドイル/著

『水晶庭園の少年たち』蒼月海里/著

『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書』山崎圭一/著

『世界でいちばん透きとおった物語』杉井光/著

『流浪の月』凧良ゆう/著

『妖怪アパートの幽雅な日常』香月日輪/著

『今宵も喫茶ドードーのキッチンで。』標野凧/著…★

『おじいちゃんわすれないよ』ベッテ・ウエステラ/作、ハルメン・ファン・ストラテン/絵
残念ながら★印の本は糸島市立図書館に所蔵がありませんが、他の本は所蔵していますので、よかったら一度手に取ってみてください。あなたの心に刺さる本に出会えるかもしれませんよ。

さて、次回からはいよいよビブリオバトルが始まります。新メンバーもいることから、「全員がビブリオバトルを知らない」ということで、ルールのおさらいを…

◆ビブリオバトルのルール◆

- ①発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ②順番に1人3分間で本を紹介する。
- ③各発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
- ④最後に「どの本が一番読みたくなったか？」を投票して「チャンプ本」を決める。

この時自分が紹介した本に投票してはいけない。

YAコーナーでのメンバーによる本の展示も始まります。

テーマは「わたしたちの趣味は…」【期間:6/15～】

みんなのどんな趣味が暴かれるのかー！

お楽しみに！



糸島市立図書館/発行

…本格始動！《第2回 YA 本研究会 6/15》…

今年度早くも2回目を迎えた YA 本研究会。
 ビブリオバトルで何を紹介しようかなーとあれこれ考えていた今月初め、1本の電話がありました。「こんにちは、糸島新聞です」から始まった話の内容は…。今年7月に本館移転10周年を迎えるにあたり、図書館の特集記事を載せていただけるらしい。そして、YA本研究会の取材をしたいとのこと。昨年度から引き続き参加の“ベテラン”と今年度から参加の“新人”より一人ずつインタビューも受けました。

記者の
米谷さん



さて、記者さんを前にした今年度1回目のビブリオバトルを制したのは…



『神様の御用人』シリーズ 浅葉なつ/著(KADOKAWA)

2013年に始まった人気シリーズ。2021年に「黄金編」の完結を迎えたが、近々新シリーズがはじまるもよう…。今度はどんな物語が展開されるのか!?

〈おすすめポイント〉

神様について詳しくなれます。はじめは頼りない主人公(すでに大人)の人間的な成長や神様と人との関わり方など、ドはまりポイント満載の物語です。

その他の紹介された本は…

- 『死にたがりの完全犯罪と部屋に降る七時前の雨』山吹あやめ/著(TO ブックス)
- 『従前従前皇帝有座遊楽園』陳又凌/文・絵(聯経出版)
- 『ものかんづめ』さくらももこ/著(集英社)
- 『日々是好日』森下典子/著(新潮社)
- 『ぴよちゃんとひまわり』いりやまさとし/さく・え(学研)

所蔵なし



展示コーナー用の資料も集め終わり、「じゃあ今日はこれで終わります。お疲れ様」と声をかけ、会議室をあとに。しかしメンバーたちの楽しそうな声が、その後も聞こえてきて、「みんな仲良さそうでよかったなあ」としみじみ思った第2回目でした。

メンバーたちの知恵を借りて、10月のイベントの内容もほぼ決めることができました。詳細の発表まで、しばしお待ちを！

YA 研の展示コーナー

今回のテーマ「わたしたちの趣味は…」【期間:6/15～】
 次回のテーマ「暑中お見舞い申し上げます」【期間:7/13～】

— 今どき高校生の夏休みの宿題は？ —

もうすぐ夏休み。メンバーが揃うまでの間にそれぞれの「夏」が気になり、聞いてみました。「夏休みにどこに行く？」—「受験生なんで毎日塾ですね」「行きたいけど、予定はない」などの答え。暑いし、あんまり出かけたりしないのかな？もしかして宿題が多いとか？と思いつつ、尋ねてみると、中学校では学校によって宿題の出る教科にばらつきがある様子。

では「高校生は？」というと、「スマホにスタディサポートのアプリが入ってて、それで解答します」とのこと。

？十年前の高校生の司書だけではなく、中学生も「すげ〜」と思っただようでした。本の電子書籍化が進んでいますが、宿題も「紙」ではない時代が・・・。

そうこうしているうちにメンバーも揃い、今回もビブリオバトルを行い、2冊のチャンプ本が生まれました。



『かばんうりのガラゴ』 島田ゆか/作・絵(文溪堂)

〈紹介者より〉

色々なかばんを売っているガラゴですが、特にぞうにお茶会用のポットの形をしたかばんをあげたところが好きです。

『15歳からのリーダー養成講座』 工藤勇一/著(幻冬舎)

〈紹介者より〉

タイトルに「リーダー」とついていますが、人に伝わる話し方のテクニックがつまっていて、誰にでも参考になります。

その他の紹介された本は・・・

『星屑鉄道の鉱石カフェ』蒼月海里/著(マイクロマガジン社)

所蔵なし

『青いイルカの島』スコット・オデル/作(理論社)

『まっくろヒヨコ』ラスカル/文、ピーター・エリオット/絵(偕成社)



— 秋のイベント決定！ —

今年はYA研のメンバーと利用者さんのコラボで「物語」を作っちゃおう！というイベントを企画しています。出来上がった「物語」は次号のYA本おすすめリストに掲載します。たくさんの方のご参加、お待ちしております。

詳細は9月頃の図書館と糸島市からのお知らせをチェックしてください。

YA研の展示コーナー

今回のテーマ「暑中お見舞い申し上げます」【期間:7/13~】

— あなたの夢はなんですか？ —

今回はビブリオバトルをお休みして、メンバーと「いつかなりたい自分」について語り合ってみました。事前に「将来したい仕事についての本や職業を決めるのに役立つ本を持ってきてね」とお願いしていたのですが、予想以上にバラエティに富んだラインナップとなりました。メンバーのひとつとともにご紹介します。

『かわいい映画のかわいいレシピ。』（ワニブックス）

小さいころ「お菓子屋さんになりたい」と思っていた。今でもお菓子作りが大好き。この本があれば、映画で見た“あの”料理が再現できる。絵本の「ぎょうれつのできるケーキ屋さん」も最後にレシピが載ってるのでおすすめ。

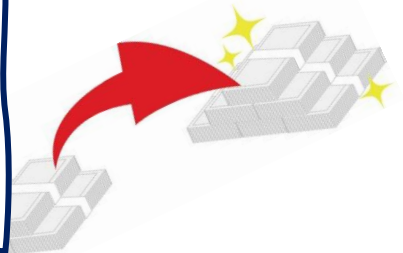


『青い鳥文庫ができるまで』岩貞るみこ/作(講談社)

本を読むのが好きでも、それがどうやってできるのかは知らない。この本を読むと、小説を作る大変さがよくわかり、本がもっと好きになる。それに、元気ももらえる。本作りをしたい人はぜひ読んでみて。

『お父さんが教える 13 歳からの金融入門』
デヴィット・ビアンキ/著(日本経済新聞出版社)

お金は稼ぐんじゃなくて、増やしたい！では、どうすればいいの
か？
そう思ったなら読んでみて。お金の運用方法がわかりやすく書いてある。まずは経済を知ること。そこから始めよう。



『不思議なウィーン』河野純一/著(平凡社)

音大に進学を考えていて、声楽も習っている。日本語の歌詞は歌うのが難しいので、まずイタリアやドイツの歌から始める。将来外国に留学したら、どんな感じなのかなあ、と思いながら読んだ本。



『元彼の遺言状』新川帆立/著(宝島社)

将来法律関係に進みたい。この本の作者は、自身が弁護士で、法律関係の小説をたくさん書いているので、自分が弁護士になった時のイメージがつかめる。「競争の番人」という著作もあるが、こちらは公正取引委員会のお話。もちろん、この本もおすすめ。



『僕には鳥の言葉がわかる』鈴木俊貴/著(小学館)

作者は動物言語学者。シジュウカラがあやつる言葉を色々調べた人で、どんなふうにしたのかが書いてある。鳥に関係する仕事がしたいと思っているので、とてもおもしろかった。



『アフターハイスクール』名古屋外国語大学出版会/編
(名古屋外国語大学出版会)

高校を卒業したあと、どうする？まだ何も決まらなくても、決められなくても大丈夫。いつか「したいこと」「なりたいもの」が見つかる。一度日本を離れてみるのもいい。この本を読めば、行ってみたい国が見つかるかも。

『WE HAVE A DREAM』
WORLD DREAM PROJECT/編(いろは出版)

夢ってなんだろう……。将来就きたい職業？なりたい自分？目を地球全体に向けてみたら、世界にはいろいろな未来を夢見て今を一生懸命生きている人たちがいる！そんな人たちの声を聞いてみたら、自分のすすむ道も見えてくる。

10代の今、将来が決められなくても大丈夫。でも、何か行動を起こしてみたくになったら、今回紹介した本たちを、手に取ってみてください。悩んでいる時、誰かの話を聞きたくなった時、きっと話し相手になってくれますよ。



— 秋のイベントに向けて —

YA 研のメンバーと利用者さんのコラボ企画「物語を作っちゃおう」(仮)に向けて、少しずつ前進しています。「参加者に何かプレゼントをしたい！」とのメンバーの熱い声を受け、そちらの準備にも取り掛かりました。物語を書くのはちょっと・・・という方のための“お楽しみ”も用意する予定です。

みなさまのご参加をお待ちしています。

YA 研の展示コーナー
今回のテーマ「WE HAVE A DREAM」【期間:8/17~】

糸島市立図書館/発行

— “雑談”もまた楽し！ —



「まずは、今度のイベントの件ですが…」と真面目に始まった今回の研究会。このノリでビブリオバトルに突入！…したのですが、それぞれの本にまつわる(?)雑談に花が咲いたので、一部をご紹介します。「懐かしい！」と思う方もいるのでは!?

★以前あった有名チェーン店がどんどんなくなった件

- 前原駅前に某ドーナツ店があって、お昼時に行くとお高年齢の方がお昼ご飯食べててびっくりした。
- 前原駅の近くに某ハンバーガー屋さんが二つもあったのに、どちらもなくなった。
- 某チキン屋さんがなくなったよ～と思ってたら、前より近くに復活した。
- 今は違うお店だけど、看板にうっすら某アイスクリーム店の名前が見える。



★本を原作とする話が他の媒体になる件

- アニメになり、マンガになりで色々な形で楽しめるけど、原作と絵が違うやん！って思う。
- 映画になった話だと、本と映画どっちを先に楽しむか悩む。



★宮崎には本屋さんあり、宿泊施設ありのステキな場所があるらしい件

- 本好きにはたまらない場所。ちょっと遠いけど、行ってみたい！場所確認しよう。
- …と、盛り上がりを見せつつも、2冊のチャンプ本が誕生しました。



『名探偵のままでいて』小西マサテル/著(宝島社)

〈紹介者より〉

コアなミステリーファンにささるお話です。認知症のおじいちゃんが、孫と事件を解決する時は頭がさえわたり、「タバコを一本くれないか」の決め台詞がかっこいいです。

所蔵なし

『それを世界と言うんだね 空を落ちて、君と出会う』綾崎隼/著(ポプラ社)

〈紹介者より〉

この物語をカンザキオリが楽曲化し、花譜が歌う曲もおすすめです。読むだけではなく、聴くだけでもなく、両方楽しんでほしいです。

その他の紹介された本は…

『世界から猫が消えたなら』川村元気/著(マガジンハウス)

『本好きの下剋上』香月美夜/著(TOブックス)

『ぼくらの七日間戦争』宗田理/作(ポプラ社)

『さよなら、灰色の世界』丸井とまと/著(スターツ出版)

『戦争で死んだ兵士のこと』小泉吉宏/作(メディアファクトリー)

所蔵なし

YA 研の展示コーナー

今回のテーマ「WE HAVE A DREAM」【期間:8/17~10/12】

—「物語リレー」ご来場 ありがとうございます—

来場者
第一号！



今年度初めての試みだった「物語リレー」が、無事終了しました。期間は10月12日(日)から10月17日(金)までの5日間。「たくさん参加してくれるかなあ…」とハラハラドキドキの初日でしたが、ありがたいことに40人近い方が来場してくださいました。あとで見つけたYA研メンバーのメモにも「〇人も来てくれた！」との言葉が…。



私たちが書いた途中までの物語は10作品。自分たちの頭の中には結末がありますが、他の方の手にかかれば、それがどんなふうになるのか？「へえ～！」と思ったり、「やっぱりそうだよねえ」と思ったり、楽しませていただきました。



お父さんは物語作りを、お子さんはブックカバー作りを、とそれぞれの形で参加してくださった親子さんもいらっしゃいました。

また、ブックカバーにイラストを熱心に描いていらっしゃる方、長い時間をかけて続きの物語を完成させる方、途中までの物語をじっくりゆっくり鑑賞される方など、思い思いに過ごされていました。



YA研メンバーの頼もしい姿を見られた初日が終わり、「平日の入り」が気になるようになってきましたが、こちらもおはなしのへやで自由に過ごしていただいたようでした。「いい雰囲気ですね」との嬉しいお声掛けをいただいたり、「まだやっていますか？」と再来場の方ありで、続きの物語も 21 作品となりました。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！

大活躍のYA研
メンバーたち
お疲れさまでした！



YA 研の展示コーナー

今回のテーマ「食欲の秋的な…」【期間:10/12~12/7】

— いよいよ年の瀬 —

年内最後のYA本研究会。今年は受験生も多く、また、この時期インフルエンザが猛威を振るっていることもあり、この日の参加者は、中学生3人・司書1人の4人とちょっと少なめ。時間に余裕がありそうだったので、ビブリオバトルの前に糸島市立図書館について中学生の意見を聞いてみることに…。



司書:みんな、どの館に行くの?

中学生:本館だけ(1人)。小さい時は志摩館、ちょっと大きくなってから二丈館、今は本館(1人)。本館と志摩館(1人)

中学生:それぞれの館でちょっとずつ蔵書が違いますよね?

司書:志摩館は児童書に力を入れてるのと、海が近いから海関係の本を、二丈館は山手だから、農業とか林業とかの本を集めてる。本館は総合的な基幹の図書館だよ。

中学生:今の話すごく納得しました。小さい時は志摩館、ある分野に興味を持ち出して二丈館、今は色々な本を読みたいから本館、というのはあってたんですね。

中学生:本館の入口の静かで薄暗い感じが好きです。

司書:大人の方で、そこが暗いのが気になる、って方もいるよ。

中学生:少し暗い空間が落ち着いて本が読めるからいい。

司書:「食べられる場所がほしい」というのもよく言われるけど、必要?

中学生:別に…。

世代が違くと、図書館に求めるものが違うのが改めてわかった機会でした。

さて、今回のビブリオバトルの結果は…。



『さよならごはんを明日も君と』 汐見夏衛/著(幻冬舎)

〈紹介者より〉

食についての悩みを持っている人にだけ現れるごはん屋さんで、その人に合わせた料理をその場で作って、色々な悩みを解決してくれます。料理のシーンが書かれてて、読むだけでおいしそう、心があったまる本です。表紙にも工夫があつておすすめです。

その他の紹介された本は…

『謎の香りはパン屋から』 土屋うさぎ/著(宝島社)

『府中三億円事件を計画・実行したのは私です。』 白田/著(ポプラ社)

『ネコの手を借ります。』 山本甲士/著(小学館)

所蔵なし

ほっこり系の本が集まった中で異彩を放つ本が1冊…!

さあ、どれから読んでみますか?

YA研の展示コーナー

今回のテーマ「心があったまるほっこりストーリー」【期間:12/7~2/4】



ヤングアダルト

YA本研究会だより

2026.3

Vol.8



— 今年度最後の… —

去年の春、初めて会った時よりなんだかみんな大人になっていて、中高生の成長ぶりを間近で見られたことをとても嬉しく思った最後の研究会。今回は、おすすめ本リスト Vol.18 の内容の確認と、テーマ展示も決めてもらわなくちゃーと考えながら、ふとみんなを見ると、紹介する本を全員持って来てくれていて…。「せっかくだから本の紹介しようか？」との問いかけに、「まあ、時間があつたら、くらいで…」と言っていたのにも関わらず、“その時”が来たら、いつものようにノリノリで語ってくれる頼もしいメンバーたち。そのラインナップは以下のとおり。

- ★『長くつしたのピッピ』アストリッド・リンドグレン/作(岩波書店)
- ★『死神の精度』伊坂幸太郎/著(文藝春秋)
- ★『風神雷神』(上)(下)原田マハ/著(PHP 研究所)
- ★『あるかしら書店』ヨシタケシンスケ/著(ポプラ社)
- ★『空色勾玉』荻原規子/著(徳間書店)
- ★『ぐりとぐら』中川李枝子/さく(福音館書店)
- ★『頭のいい人だけが解ける論理的思考問題』野村裕之/著(ダイヤモンド社)
- ★『判決は CM のあとで ストロベリーマーキュリー殺人事件』
青柳碧人/著(角川書店)

どの本も糸島市立図書館に
所蔵があります

「小さいころお母さんに読んでもらった」「リアリティがあつておもしろい」「発想力がすごい」「ずっとパンケーキだと思ってたらカステラだったことがわかって衝撃だった」「受験中に家族でハマった」などなど、読んでみたくなるようなエピソードもちゃんと語ってくれました。『頭のいい人だけが～』の紹介後は、みんなで問題を解いてみて、正解を出したあとの爽快感も味わえる楽しい最終回でした。

これから新たな場所に羽ばたく人、来年度もこの研究会に参加してくれる人、それぞれですが、きっとまたいつ会っても好きな本や色々な話題で盛り上がるんだろうな、と思えるほど、今年度はとても雰囲気の良い研究会でした。



私たちの
バトル会場にて

また、この場所で
会いましょう



YA 研の展示コーナー

今回のテーマ「春！…まだまだ春」【期間：3/22～5/24】

糸島市立図書館/発行

◆◆このリスト作成に関わった YA 本研究会メンバー紹介◆◆

若林 優希奈（高校3年生）

YA に入ってから5年、先輩の背中を見つづけてきた自分が気づけば卒業。あっという間でした。この5年間、本当にいろんな本と、人と出会うことができました！ここまで一緒に活動してきた皆へ、本当にありがとうございました！！

福山 彩音（高校2年生）

古川 百花（高校2年生）

昨年よりは多く参加することができ、新たな仲間と新しい取組をすることができました。様々なジャンルの本を知る機会に恵まれて、とても楽しかったです。来年もよろしくお願いします。

松口 のどか（高校1年生）

YA 本研究会も4年目になりました。それでもまだまだビブリオには慣れません笑。来年にはもっと上手に紹介できるようになればいいな、がんばります。改めて今年も1年間ありがとうございました、楽しかったです！

北原 璃乃（中学3年生）

私は今年から YA 本研究会に参加しました。はじめの頃はとても緊張して馴染めるか不安でしたが、本を通してメンバーと沢山話すことができ嬉しかったです。本当に本の力は偉大だな、と感じます。毎回のビブリオバトルでは普段自分の読まないジャンルの本などとの出会いもあり、自分の中の本の世界も広がったり、自分の好きな本をどう紹介したらみんな読みたくなってくれるかな、と考えたりするのもすごかったです。この1年間は YA 本研究会を通して、物語りレーなどたくさんの新しい経験をしてより本を大好きになれた1年だったと思います。

西 亮祐（中学3年生）

今年は初めてチャンプ本を取ることができたり、紹介途中で詰まってしまうことも少なくなり、かなり成長できた1年でした。ですが、部活に受験にとやらなければいけないことが次々と押し寄せ、ゆっくりと本を楽しむ暇もなくどこか慌ただしい1年でもありました。来年は本を楽しめるような穏やかな1年になれるように・・・
（笑）あ、でも高校って大変すぎてヤバそう・・・。

城戸 孝希（中学3年生）

2年間YAに所属し、今年はまた去年と違い新たなメンバーと新たな多くの経験ができました。特に物語リレーでは、いつもは本を紹介する側でしたが、今年は作る側となり、新たな視点を持つことができて良かったです。この経験を今後にも活かしたいです！本当にありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

甘蔗 千代（中学1年生）

今年度YA本研究会に初めて参加しました。人になにかをすすめるというのは、あまり得意ではありません。ですがビブリオバトルでみんなにおすすめの本を紹介して、すごく楽しかったです。参加できなかったときもあり、残念でしたが、参加してみても楽しかったです。一年間ありがとうございました。

井上 侑香（中学1年生）

私は母に勧められ、このYA本研究会に入りました。先ばい方がたくさんいて、最初はすごくきんちょうしたけど、たくさんやさしくしていただき、本をしょうかいするのが楽しくて毎回楽しみにしていました。しょうかいされた本を図書館で手にとってみたり、新しいジャンルの本にちょう戦したりするきかいもふえました。私はこの活動で、オススメをしょうかいする楽しさや楽しい本に出会えるおもしろさを学びました。すごく参加してよかったです！

川内 崇子（司書）

あっと言う間の一年間。ただただ委員のみんなに感謝です。これからも読書をたくさん楽しんで！



またね～

表紙デザイン：はらたけ めぐみ
(春日市在住のイラストレーター)

著作紹介

『自分を大切にするひとことイラスト集
心地よく生きていたいママのために』
リスペクトデザイン 2025.8 (726.5ハ)

